

特定非営利活動法人箕輪城元気隊

キーワード：箕輪城 体験工房

活動地域：群馬県高崎市箕郷地区

活動地域概要：

高崎市は、群馬県を代表する都市で、関東と信越を結ぶ交通の要所。箕郷地区（旧箕郷町）は、榛名山の南面にあり、2006年に高崎市に合併している。箕郷梅林は、東日本随一の規模を誇り、全国有数の梅の生産地。戦国時代の古城、国指定の史跡「箕輪城跡」があり、城下町からできた歴史の町。地域の人口は2万2千人、気候は空っ風の群馬の中でも榛名山南面で、北からの風は弱められる。産業は、梅のほか、榛名火山からの軽石を利用したブロックの生産も大きい。



団体・活動概要：

かつて戦国時代の古城「箕輪城」の城下町として賑わった箕郷地区は、昔の面影も無く商店街は衰退して、町中に人が集うことがなくなっていました。そのような地域の状況に危機感を抱いた住民有志が、箕輪城・箕輪城下町に焦点を当てて、歴史と文化を生かしてまちの活性化を図るために団体を結成しました。これまで、箕輪城跡を核とした体験学習会、城跡の整備・除草、甲冑武者行列等のまつりを行ってきました。助成対象活動では、元病院の建物を借りて「下駄工房」「民具工房」「張り子工房」という体験工房と箕輪城案内所を設置しました。また、看板も取り付け、多くの人に地域に関心を持ってもらえるような活動を推進してきました。今後も継続して古城の復元、公園の整備をはじめ、来訪者の増加を促すような取り組みを主体的に行っていきます。



特定非営利活動法人箕輪城元気隊

設立：2001年 メンバー総数：30名

代表者：理事長 宮川 泰一

連絡担当者：副理事長 関口 修一

連絡先：〒370-3105 群馬県高崎市箕郷町西明屋287-3 宮川クリニック

TEL：027-373-8855 宮川クリニック

FAX：

E-mail：

ホームページ：<http://www.geocities.jp/minowajougennkitai/index.htm>

1 団体の目的と経緯

(1) テーマ

本団体は、箕輪城跡の健康散策から住民の福祉増進を図り、箕輪城跡の散策遊歩道の整備、箕輪城の研究・教育の推進、そして箕輪城下町の活性化を図るために、特定非営利活動法人として2001年に創立されました。

それをテーマ化すると「箕輪城跡に健康散策道を、箕輪城下町に体験工房を設置して、箕輪城の再生で健康生活を活性させる！」となります。このテーマの下に、活動を続けてきました。

(2) 目的

本団体の目的はというと箕輪城跡に関心を持っていただくこと、戦国時代の西群馬の地域史を知っていただくこと、箕輪城・箕輪城下町に訪れていただくことです。

箕輪城跡に関心を持っていただくこと

本団体の活動は箕輪城跡を資源としています。市民・住民にこの箕輪城に関心を持ってもらうことが第一の目的です。箕輪城は、戦国時代において、長野尚業氏が築城し、四代にわたって死守した城です。この長野氏が善政を行なった(特に長野信濃守業政は、数回に及ぶ信玄の激しい攻撃を受けながら少しも譲らず戦いぬき領民のために尽くしたので、名城主として長く語り継がれている。)ので、この地域の人々は、親しみをもって善政を偲び後世に伝えてきました。

この長野氏の偉業を、その後の箕輪城の存亡を、戦国の歴史の中で人々に関心をもっていたいただきたいものです。

戦国時代の西群馬の地域史を知っていただくこと 戦国時代において、西群馬は武田氏・上杉氏の領

地争いの草刈場となってしまいました。関東管領の支配下にあった長野氏は関東管領となった上杉氏に組しました。しかし、武田信玄の再三の攻撃に遭い二万の軍勢に二千の軍で対抗しましたが、落城を防ぐことはできませんでした。

このときの有力武将に上泉伊勢の守がいました。かれはその後、京都に出て、柳生氏に武芸を教えたことでも名を馳せました。

その後、武田氏の支配下の内藤氏の居城となりました。その後も天下の支配者が変わるとその支配下の武将の居城となりました。

徳川氏が天下を取ると井伊直政が入城し、城下町をつくりました。その時の町名がこの地の小字名に残っています。また、この町名が高崎市の町名にも残っています。井伊直政が、箕輪城から高崎城に移城するときもってきたものです。

こんな箕輪城・箕輪城下町に住民・市民・県民が散策に訪れたり、歴史の体験学習をしたりしていただきたいと思っています。

箕輪城・箕輪城跡に訪れていただくこと

現在、箕輪城跡は国指定史跡となり、埋蔵文化財調査の発掘を行なっています。その調査により、この城の様子が段々わかってきました。発掘調査をしたあと、現地説明会をその都度行なっています。たくさんの方々に赴いていただいています。この説明会だけではなく、休日に歴史ファンや名城ファンに訪れていただいています。このようなファンだけではなくたくさんの方々においでいただくためには、城跡の整備・除草を常時行なっておく必要があります。今後は城門や堀の復元を行なうことで城らしさを醸し出し、「箕輪城跡公園」としていきたいものです。

また、城下町に体験工房を設置することで、箕輪城下町を整備して、人々に訪問していただきたいも



箕輪城下町



箕輪城跡

のです。

さらに、城下町の町並み保存も行ない城下町の情緒を醸し出したいものです。箕輪城下町の体験工房や町並み保存による整備で、外からの訪問する人々を招くことができます。

下駄・民具・張り子工房に訪れていただくこと
箕輪城下町に体験工房を設置して、箕輪城周辺で産出した桐材を活用して下駄をつくり、その下駄に合った鼻緒も手作りしました。下駄には、美しい風情ある絵を描きました。また、これをすべて手作りすることもできますし、部分的に手作りすることもできます。

同様に桐材を活用して、民芸風椅子を製作しました。これらも手作りすることもできます。桐材なので加工しやすく、座って温かみのある椅子が出来上がります。

張り子工房では、高崎、豊岡だるまの伝統技で、張り子の甲冑・人形・能面を製作できます。もちろん、全工程でも部分的でも体験できます。

これらの下駄づくり・木工作・張り子等の体験を楽しんでいただきたいものです。

(3) 地域の状況や課題

国指定史跡の箕輪城跡

箕輪城跡は国指定の史跡となっています。そのため今まで、手がつけられませんでした。箕輪城跡の総面積は10ha以上あります。堀と曲輪(くるわ)とが、互い違いに連なっています。堀の中には杉林が、曲輪には梅林や畑があります。史跡調査するために町が買上げたため、その後の耕作がなされず、荒

れ果てています。これらの土地の除草するにも費用がかかります。

史跡とそれ以外のところをわけるとして、史跡とのコンクリート杭がたくさんあります。史跡と史跡外とを分けています。

城跡は史跡調査、埋蔵文化財の発掘調査中

昨今は、文化庁からの補助事業として、埋蔵文化財発掘調査を行なっています。この調査で、箕輪城の確かな姿が徐々にわかってきました。箕輪城跡にいくつもの城門があったこと、曲輪は石垣で囲まれていないと見られていた箕輪城の堀の下部に石垣があったこと、城門等の敷石に長野氏時代の墓石がたくさん使われていたことなどがわかっています。凡字の刻まれた墓石、長野時代の年号が見られる墓石が城門の敷石に使われていました。前時代を支配することを意味するのでしょうか。これにより、この地域の人々の長野氏への思いはさらに募ることとなったでしょう。

荒地の箕輪城跡

箕輪城跡の土地利用は杉植林・雑木林・雑草地等でほとんど手が入っていない荒地となっています。堀部分はほとんどが杉林、もう三十年も経った林もありますが、それほど太くなっていません。手入れがあまりしてないということでしょうか。杉林に雑木が藤つるが巻きついて、枯死してしまった部分もあります。最近では発掘調査のためや訪問客のために、下刈りが不十分ながら整備されるようになりました。

部分的ではありますが、わたし



下駄・民具・張り子工房の看板



工房に活用している元医院



工房内の元医院の名残り

たちの除草作業も役立っています。さらに、わたしたちや他の団体の整備活動による蕎麦畑や花畑の整備で、城跡が花で飾られるようになりました。

史跡公園・古城復元の計画

「箕輪城跡史跡公園」の整備や「箕輪城」復元の計画の具体化を図ります。公園・城の復元をどうするか、どのように整備するか、などの課題があります。「史跡公園」として、本丸の部分を中心に、広々とした公園を整備、そのほかの部分は、里山として残す計画を立てます。

「箕輪城」としての体裁を保持するため本丸等の城門・石垣・堀・家屋の復元計画を立てます。

(4) この活動を始めたきっかけ

箕輪城跡の荒廃阻止

戦前は箕輪城跡で食糧増産のため、開墾され米麦の栽培が行なわれていました。戦後は米麦の栽培は一時期でその後は、杉植林がどんどん進められました。それも放置され、未整備の状態が続き荒廃化が進行しました。

現状も地主は耕作するより史跡地として買い上げてもらいたいとの意思を持っています。町はこの史跡部分のかなりの部分を買上げました。これ以上買い上げすることはないでしょう。その買い上げ部分が発掘調査されることなく放置されているので、荒廃化が進行するのみです。これを阻止するため本団体の活動が計画されたのです。

荒廃原野の除草で遊歩道の整備、杉植林地の下草刈で杉林の整備、元梅林の整備で梅林の蘇生、元農地の農地化で蕎麦畑・花畑の整備を行なっています。

訪問者あふれる箕輪城跡に

人々に箕輪城跡に訪れてほしいので、これらの活動を実践しています。箕輪城跡公園に人々は憩い、

本丸から堀につながる遊歩道を人々が散策しています。里山の環境を維持した堀や曲輪で春には山菜を摘む、夏にはゆりの花を楽しみ、秋にはどんぐりやくりを拾い、冬には落ち葉を集めています。ここでたくさんの人々が楽しめるようになってます。

箕輪城跡の整備をするため

箕輪城跡は堀と曲輪でできています。この曲輪の部分に農地として整備しています。春にとうもろこし・大豆を栽培しています。夏に蕎麦・葉牡丹を栽培しています。秋には小麦・大麦・たまねぎを栽培収穫しています。

これらのものを城跡で栽培収穫することで、城跡は整備されました。

(5) これまでの活動経緯

箕輪城跡の整備・除草活動

箕輪城跡の発掘調査をしているところの整備除草を町に申し出ましたが、発掘調査中なので調査終了後お願いしますと言われました。それで、発掘していないところの整備・除草活動を実施することとなりました。

具体的には、椿名曲輪付近・外堀付近・二の丸枯死曲輪付近・郭馬出し付近・新曲輪付近・埋門付近等の整備をまかされました。

・散策道の除草作業月2回

本団体の活動日は毎週土日でしたので、そのうちの隔週で一日を散策道の除草作業を行なうこととしました。刈り払い機を購入活用して、行ないました。

・散策道の整備活動月2回

除草作業の裏の週に整備活動を行ないました。散策道の整備、でこぼこ補修を行なうことでした。



箕輪城跡を望む



下駄工房の見学者

結構時間のかかる労力のいる作業でした。

- ・曲輪・堀の除草作業土起こし・蕎麦まき・蕎麦刈り取りの各作業

原野・荒野の除草作業、横に列になり、刈り払い機を活用して、進められました。そのあと刈った草を片付け、トラクターを使い、土起こしを行ないました。その跡地に蕎麦・小麦・大麦・とうもろこし等の作物を播種栽培し、刈り取り収穫を行ないました。この後製粉して、そば打ち・うどん打ち・パンづくりを行ないました。

- ・堀の杉間伐作業

杉植林地の整備をおこなったり、枝打ちや間伐を行なったりしました。堀の傾斜がきつく苦勞することもありました。

- ・曲輪の梅剪定作業

椿名梅林の剪定を12～2月の冬に行いました。繁茂しすぎた枝を思い切って伐採しました。少々剪定しすぎたところもありましたが、年々枝ぶりが良くなりました。

箕輪城芸術祭

箕輪城芸術祭として、写生大会・絵画コンクール・表彰式・作品展を連続的に行なってきました。とくに、箕郷町は、山口薫画伯の生誕の町です。それを記念してこのまつりを行なうこととしました。

写生大会は秋のよき日に、箕輪城跡や公園で写生大会を開催しました。人集めがなかなかたいへんでした。絵画コンクールは山口薫画伯を記念して、大人と子どもを分けて、賞をたくさんもうけたので、参加作品も1,000近くになりました。この絵画コンクール作品展は出品作品全部を展示して、住民の皆様にご観覧していただくこととしました。大変評判

がよく、多数の人々に観覧していただきました。

展覧会場に受賞者を招き、絵画コンクール表彰式を行いました。受賞者の家族等で、大変にぎわいました。

演劇祭と名打ち、芸術祭の中で開催いたしました。特に、長野氏のことを物語として、劇が演じられ、好評を博していました。

文学賞は平成17年度から設けられ、夏から募集し、芸術祭の中で、授賞式を行ないました。

箕輪城まつり

箕輪城まつりとして、手作り甲冑行列・鎮魂祭・アトラクション等を楽し行ないました。

甲冑製作では、甲冑を高崎豊岡だるまの伝統技で手づくりしました。張り子の甲冑としたたれの衣装を製作したものを、人々が楽しんで着用してくれました。

この手作り甲冑を使い、手づくり甲冑武者行列を組織しました。長野隊を先頭に、武田隊、井伊隊、北条隊等を配し、町役場から箕輪城跡を目指して行進しました。皆楽しんで、元気よく行列で行進してくれました。

このまつりでの武者装束は手づくりであり、甲冑とその下に着る装束の製作に心配しました。それらの武者装束の製作、したたれの縫製に時間がかかっていましたが、きれいなものが出来上がり喜びあいました。

このようにして、箕輪城まつりが200人の行列隊と1,000人ほどの見学者が鎮魂祭・アトラクションに訪れました。

箕輪城市

箕輪城下町の再興を図るために、箕輪城市として設けられました。この中では、手作り体験を中心に行いました。例えば、手づくり竹細工として竹とん



作成された張り子人形



下駄のすげ替えの様子

ぼつくり、手作り木工の椅子づくり、桐材の下駄・鼻緒づくり、手作りですげ替えを行ないました。さらに、張り子の手作り品を種々製作しました。甲冑・人形・能面の体験製作ができるようにもしました。

フリ・マーケットを募り、古着・竹皮編み・パン・焼き饅頭・野菜・花・ぬいぐるみ・やきそば・豚汁・スライム等を行ないました。年間、4回くらいできるといいのですが、今のところ2回できました。

箕輪城そばまつり

箕輪城市の一種として、蕎麦を収穫したのを期に開催しました。手打ち蕎麦、そば製品のつまっこ・そばがき・蕎麦饅頭を賞味していただきました。手打ちそば実演と銘打って、町中在住のそば屋さんの友だちにおいでいただき、そば打ちの実演を外でしていただきました。おいしいそばを賞味していただきました。

手打ちそば体験を蕎麦職人に指導していただき、そば打ちを体験していただきました。また、田舎そばの実演を農家の奥さんにしていただきました。田舎風味の蕎麦も楽しまれていました。

箕輪城市の一部として、竹細工の手づくり体験、下駄作り手作り体験、能面の手作り体験を行なっていただくこととしました。

2 活動の内容

(1) 具体的な活動の紹介

体験工房と案内看板の設置

体験工房として「下駄工房」「民具工房」「張り子工房」を設置し、下駄づくりと鼻緒づくりとすげ替えができる体験工房としました。この体験工房では、箕輪城案内所としても活用できるようにしました。さらに、人々が集まれるようなサロンの機能をも加味することとしました。

箕輪城・箕輪城下町の案内看板の設置で、城・城下町の体裁を整えるようにもしました。この看板も高札風にして時代を表すようにしました。

(2) 活動の特徴、工夫点、苦労した点

竹細工・木工・張り子工作の手づくり体験に準備用意がたいへんでした。体験には時間がかからないので、どこをどのように体験していただいたら体験者が満足できるのかに苦労しました。張り子ダルマの凹つくりの型製作では、この型が大きくなり扱うのが大変でした。その製作にも時間と工夫が必要でした。

さらに、手づくり体験工房の借用折衝に苦心しました。なかなか手ごろの家屋が見つからない。ご無理を言ってやっと確保することができました。体験工房へのお客さん・訪問者を多くして、採算化が困難でした。工房においでいただくことが大切でした。しかし、人々は気軽にきていただけません。その上、下駄・民具・張り子を購入してやることできません。

3 活動の成果

(1) 目的・目標は達成できたか

三つの体験工房「下駄工房」「民具工房」「張り子工房」が設置でき、町づくりセンターである箕輪城案内所も設置でき、さらに箕輪城・箕輪城下町の案内看板が設置できました。

(2) 地域や団体にどのような変化をもたらしたか

町民や訪問者が「何の店？」と関心を持っていただけようになりました。また、箕輪城元気隊の名が地域の人々に認められるようになりました。

(3) 活動に必要な資源(人材、資金、情報、ネットワーク etc.) の活用と構築



下駄の鼻緒の数々



ひよっこ等の能面

その人材は、町づくりセンターに集う各団体からの協力によって、ボランティア活動で協力してくれました。資金は、体験工房から得るのはまだまだ困難です。各協力団体からの援助をいただいています。情報は、各協力団体からや自治体から得ていますし、ネットワークを高崎市箕郷町の町づくりセンター等に頼っています。

(4) 助成がどのような役割を果たしたか

体験工房を借用するのに役立っています。困難さがあればあるほど、たいへんだが、協力も多くなっています。そんなことで、みんなから援助していただきました。

そして、箕輪城下町づくりの第一歩を確保することができました。輝かしい箕輪城下町が構築され、今後の発展が望まれています。

(5) その他の成果と思われること

箕輪城・箕輪城下町の再興を住民の方々から認めていただきました。そのため、元気隊に協力していただけるようになりました。

さらに、本事業に対して、皆さんが認め、支援してくれるようになりました。徐々にお立ち寄りいただけるようにもなってきました。

4 活動資金

(1) 助成金以外の財源

助成活動における活動資金のうち、助成金以外の財源の内訳とその割合では、本団体の役員・会員による寄付金が20万円ほどで20%の割合となっています。

助成活動への協力団体の会員からの寄付金が20万円ほどでやはり20%の割合となっています。

(2) 助成期間終了後の活動資金確保の見通しとその

方策

本団体の役員・会員とその他協力団体からの寄付金は40万円ほどです。体験工房からの収益が20万円ほどです。

5 課題

(1) 団体や活動の抱える課題と解決方策

本団体の課題は活動資金の生み出しと協力者の確保です。また、本活動の課題は体験工房の採算化と体験者の確保です。

(2) 解決方策

活動資金確保の解決方策は会員の増加であり、協力者の確保は、リピーターとボランティアの増加です。

体験工房の採算化は体験者のリピーター化、体験工房での体験活動を何度も重ねるイベントを計画実施することです。

6 今後の展望

(今後の展開として検討・予定している内容や目標等)

(1) 今後の展開として検討・予定している内容や目標

箕輪城まつりを10月30日に行い、武者行列・箕輪城市等のイベントを多くしたり、箕輪城そばまつりをおこなったりして箕輪城下町に訪問者を増やすようにします。さらに、箕輪城跡に城門を復元し城跡への訪問者の憩いの場とするためや、箕輪城下町の古い酒屋の跡地を再開発・造り酒屋の復活をするため市民・行政に働きかけます。

(2) 団体の将来

箕輪城の復元と箕輪城跡公園の設置を支援すること、箕輪城から全国の戦国古城の復活・復元の活動を支援すること、世界中で荒廃している古城の保存・発掘・調査を支援することを今後行なっていくことを計画中です。



丸太の中心を出す作業中



木彫原型